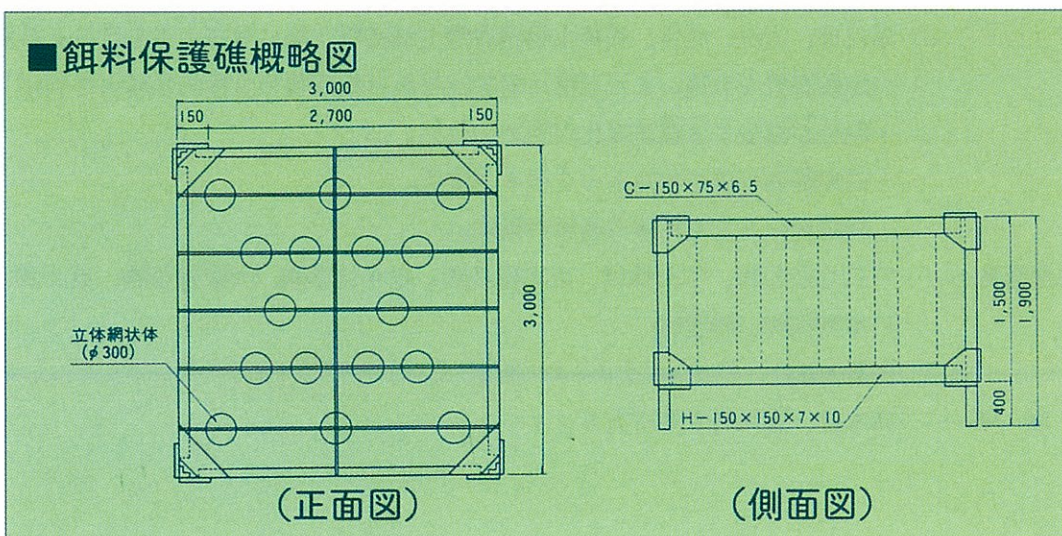
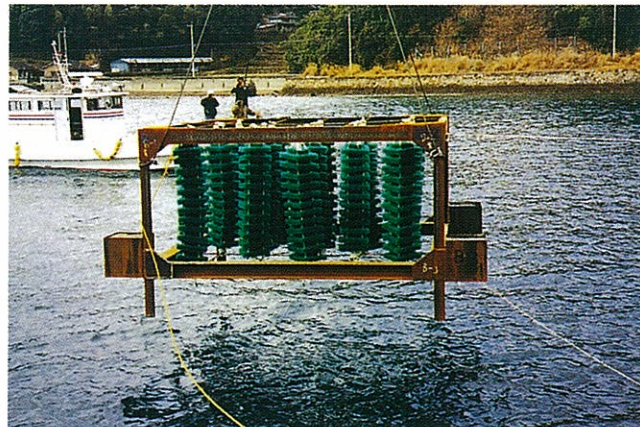
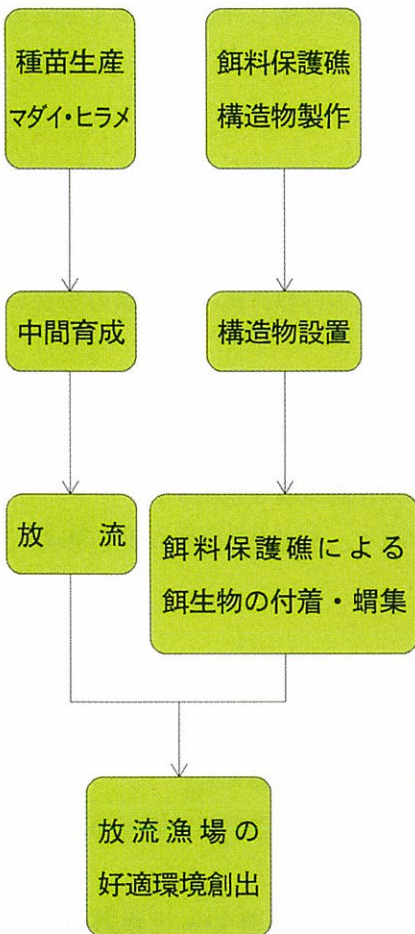


餌料保護礁

研究会 マリノバージョン技術

種 目 閉鎖性海域資源管理型漁業システムの開発



事業概要

- 場 所……………熊本県不知火海天草下島大多尾漁港地先
(距岸 500m、水深 7m)
- 事業実施期間……………昭和 61 年度～平成 2 年度
- 施設概要……………藻場などの葉上生物やプランクトンを増殖させるための構造物です。
構造物内部に取り付けられている網状体には、節足動物や軟体動物などが中心に生息し、構造物周囲の海底では環形動物や節足動物が生息します。また、構造物周辺には動物プランクトンのスウォームが発生し、対象魚への天然餌料を供給します。
 - 仕様 鋼製構造物
 - ・寸法 3m×3m、高さ：1.5m
 - ・重量 1.47トン(設置圧：0.17トン/㎡)
 - ・材料 SS41
 - 適用条件
 - ・砂質、砂泥域の海底
 - ・適度の潮通しがある海域。
 - 効果
 - ・葉上生物の増殖に効果があります。
 - ・天然礁がない砂泥域においても藻場に生息する葉上生物が増殖可。
 - ・安定性が高く、波、流れなど浅海域の設置も可。
 - ・稚魚の保護礁、放流礁としても利用可。
 - 実証効果 平成 2 年 2 月 13 日熊本県不知火海天草下島大多尾漁港地先の水深 7m、距岸 500m に、餌料保護礁 3 基を設置し、実証実験を実施。構造物の設計に当たっては、水理実験を実施し網状体の容積率を決定した。
 - ・水理実験の結果、網状体の容積率が 16% のケースが反流域が最も大。
 - ・葉上生物の蝸集状況は、季節的な変動が見られるものの、節足動物を中心に多く出現した。
 - ・動物プランクトンは礁の上流側に比べ、下流域で多く出現した。
 - ・餌料保護礁にマダイ稚魚を放流した結果、初期減耗があるものの天然稚魚の生息する海域に放流した結果と同等以上の滞留が認められた。
- 種目参加会員……………※¹ 日立造船(株)、※²(株)大林組、東洋建設(株)、総合科学(株)、大成建設(株)、東レ(株)、日本無線(株)、(株)間組
※¹ 幹事会社、※² グループリーダー会社
- 協力機関……………熊本県、熊本県水産研究センター